

肝細胞がん

アテゾリズマブ／ベバシズマブ併用療法

			Day	1	8	15	21
アテゾリズマブ	1200mg/body(固定量)			●			
	点滴静注	60分 → 30分					
ベバシズマブ	15mg/kg			●			
	点滴静注	90分 → 60分 → 30分					

21日ごとにくりかえす

制吐療法などの前投薬
なし

投与基準

副作用による減量基準
—

肝機能による減量基準

腎機能による減量基準

肝細胞がん

トレメリマブ／デュルバルマブ

			Day	1	8	15
トレメリマブ	300mg	60分		●		
デュルバルマブ	1500mg 点滴静注	30分		●		

デュルバルマブのみ28日ごとにくりかえず
トレメリマブは初回のみ

全身化学療法歴のない切除不能な肝細胞癌患者
局所療法の適応とならない、Child-Pugh分類Aの患者

制吐療法などの前投薬

投与基準
添付文書参照

肝機能による減量基準

腎機能による減量基準

胆道がん

GCS(ゲムシタビン+シスプラチン+エスワン)療法

			Day	1	7	8
ゲムシタビン	1000mg/m ² 点滴静注	30分		●		
シスプラチン	25mg/m ² 点滴静注	1時間		●		
エスワン	80mg/m ² 内服			7日間 		
14日ごとにくりかえす						

制吐療法などの前投薬

パロノセトロン+デキサメタゾン

投与基準

白血球数>2,000

血小板数>7万

副作用による減量基準

肝機能による減量基準

ゲムシタビン 総ビリルビン 1.6～7.0 800mg/m²

腎機能による減量基準

シスプラチン GFR(mL/min) >50 100%
10～50 25%減量
<10 50%減量

エスワン <30 禁忌

胆道がん

デュルバルマブ＋GC（ゲムシタビン＋シスプラチン）療法

			Day	1	8	15	21
デュルバルマブ	1500mg/body 点滴静注	1時間		●			
ゲムシタビン	1000mg/m ² 点滴静注	30分		●	●		
シスプラチン	25mg/m ² 点滴静注	1時間		●	●		

21日ごとにくりかえす
最大8コース

治癒切除不能な胆道がん

デュルバルマブは3週ごとに繰り返す。

GC療法と同日に投与するのが原則であるが、副作用等の状況により、
同日に投与できないこともありうる。

上記を8コース実施し、以降はデュルバルマブ単独で4週ごとにPDなるか
または許容できない毒性が認められるまで投与を繰り返す。

制吐療法などの前投薬

パロノセトロン＋デキサメタゾン

投与基準

白血球数＞2,000

血小板数＞7万

副作用による減量基準

—

肝機能による減量基準

ゲムシタビン 総ビリルビン 1.6～7.0 800mg/m²

腎機能による減量基準

シスプラチン	GFR(mL/min)	>50	100%
		10～50	25%減量
		<10	50%減量

胆道がん

GC(ゲムシタビン+シスプラチン)療法

			Day	1	8	15	21
ゲムシタビン	1000mg/m ² 点滴静注	30分		●	●		
シスプラチン	25mg/m ² 点滴静注	1時間		●	●		

21日ごとにくりかえす

制吐療法などの前投薬

パロノセトロン+デキサメタゾン

投与基準

白血球数>2,000

血小板数>7万

副作用による減量基準

—

肝機能による減量基準

ゲムシタビン 総ビリルビン 1.6～7.0 800mg/m²

腎機能による減量基準

シスプラチン GFR(mL/min) >50 100%
10～50 25%減量
<10 50%減量

胆道がん

ゲムシタビン単独療法

			Day	1	8	15	21
ゲムシタビン	1000mg/m ² 点滴静注	30分		●	●	●	

21日ごとにくりかえす

制吐療法などの前投薬
デキサメタゾン

投与基準
白血球数>2,000
血小板数>7万

副作用による減量基準
—

肝機能による減量基準
ゲムシタビン 総ビリルビン 1.6～7.0 800mg/m²

腎機能による減量基準
—

胆道がん

ペムブロリズマブ/ゲムシタビン/シスプラチン

			Day	1	8	15
ペムブロリズマブ	200mg 点滴静注	30分		●		
ゲムシタビン	80mg/m ² 点滴静注	30分		●	●	
シスプラチン	800mg/m ² 点滴静注	60分		●	●	

3週間ごとまたは6週間ごとに繰り返す

* 6週間毎の場合、ペムブロリズマブは1回400mg

* シスプラチンは8コースまで

以降はペムブロリズマブとゲムシタビンのみで継続

化学療法歴のない治癒切除不能な胆道癌

制吐療法などの前投薬

投与基準

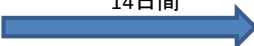
添付文書参照

肝機能による減量基準

腎機能による減量基準

膵臓がん

GS(ゲムシタビン+エスワン)療法〈術前化学療法〉

			Day	1	7	8
ゲムシタビン	1000mg/m ² 点滴静注	30分		●		●
エスワン	80mg/m ² 内服					

21日ごとにくりかえす
2コース

制吐療法などの前投薬
デキサメタゾン

投与基準
白血球数>2,000
血小板数>7万

副作用による減量基準

肝機能による減量基準
ゲムシタビン 総ビリルビン 1.6～7.0 800mg/m²

腎機能による減量基準
エスワン <30 禁忌

膵臓がん ゲムシタビン+nabパクリタキセル

			Day	1	8	15	21
ゲムシタビン	1000mg/m ² 点滴静注	30分		●	●	●	
nabパクリタキセル	125mg/m ² 点滴静注	30分		●	●	●	

28日ごとに繰り返す

制吐療法などの前投薬
デキサメタゾン

投与基準

副作用による減量基準

	減量の目安	次回投与時
好中球数	<500/mm ³ が7日以上継続	1段階減量
血小板数	<50,000/mm ³	1段階減量
発熱性好中球減少症	発現(≧Grade3)	1段階減量
末梢神経障害	≧Grade3	1段階減量(nab-PTXのみ)
皮疹	Grade2/3	1段階減量
口腔粘膜炎	≧Grade3	1段階減量
下痢	≧Grade3	1段階減量

減量方法

	nab-PTX	ゲムシタビン
通常量	125mg/m ²	1000mg/m ²
1段階減量	100mg/m ²	800mg/m ²
2段階減量	75mg/m ²	600mg/m ²

肝機能による減量基準

ゲムシタビン 総ビリルビン 1.6～7.0 800mg/m²

腎機能による減量基準

—

膵臓がん

FOLFIRINOX療法

			Day	1	2	3	14
オキサリプラチン	85mg/m ² 点滴静注	2時間		●			
レボホリナート	200mg/m ² 点滴静注	2時間		●			
イリノテカン	180mg/m ² 点滴静注	90分		●			
フルオロウラシル	400mg/m ² 急速静注			●			
フルオロウラシル	2400mg/m ² 持続静注	46時間					
				14日ごとにくりかえす			

適応

PS 0～1の治癒切除不能な膵がん
(有効性と安全性が検証されているのは1次治療のみ)

制吐療法などの前投薬

パロノセトロン＋デキサメタゾン＋アプレピタント

投与基準

副作用による減量基準

添付文書参照

肝機能による減量基準

オキサリプラチン 減量の必要なし
イリノテカン 総ビリルビン値 1.5～3 mg/dL 75%

フルオロウラシル

腎機能による減量基準

オキサリプラチン CCr>20であれば100%
イリノテカン 減量の必要なし

膵臓がん

リポ化イリノテカン／フルオロウラシル併用療法

			Day	1	2	3	14
リポ化イリノテカン	70mg/m ² 点滴静注	90分		●			
レボホリナート	200mg/m ² 点滴静注	2時間		●			
フルオロウラシル	2400mg/m ² 持続静注	46時間					

14日ごとにくりかえす

適応

がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な膵がん(2次治療以降)

制吐療法などの前投薬

5-HT₃受容体拮抗剤＋デキサメタゾン(＋アプレピタント)

投与基準

添付文書参照

副作用による減量基準

添付文書参照

リポ化イリノテカン 70 → 50 → 43mg/m²

接合体のホモ or ヘテロ 50 → 43 → 35mg/m²

フルオロウラシル 2400 → 1800 → 1350mg/m²

レボホリナート 減量しない

肝機能による減量基準

添付文書参照

腎機能による減量基準

添付文書参照

膵臓がん

ゲムシタビン単独療法

			Day	1	8	15	21
ゲムシタビン	1000mg/m ² 点滴静注	30分		●	●	●	

28日ごとにくりかえす

制吐療法などの前投薬
デキサメタゾン

投与基準

副作用による減量基準
—

肝機能による減量基準
ゲムシタビン 総ビリルビン 1.6～7.0 800mg/m²

腎機能による減量基準
—